

入試分析 数学

【主な特徴】

問題ごとの難易度の差が激しい。特に、関数と図形で難易度が高い問題が18点分出題される。計算と高い技術が必要。

【出題形式】

問1: 計算問題(記号選択・5問)

例年通りの出題内容。基本的な計算問題ばかりなので、**ここは満点が絶対条件。**

問2: 小問集合(記号選択・5問)

例年通り、計算系を中心に基本的な問題ばかりなので、**ここも満点を目指したい。**

問3: 応用問題(記号選択・4問/記述・2問)

(ア)の証明、(イ)の資料の問題は例年どおり。(エ)が平面図形の難問であるのは去年と同様であるが、(ウ)に関数の文章問題が復活した。問題としてはよくある問題であるが、**答えを求めるための手順が多く、素早い問題処理が求められる。**

問4: 関数(記号選択・2問/記述・1問)

(ア)(イ)は基本的な問題。ただし(イ)は計算の手順も多く易しくはない。また(ウ)の面積の問題は今年も**関数の知識・技術だけではなく図形の知識も必要であり、解答までの手順も多いため、難易度は高い。**

問5: 確率(記述・2問)

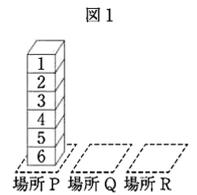
例年より平易なルールであるが、問題の条件を満たすにはどのような目が出ればいいのかという**条件を一般化して考えることが出来ないと正解するのは厳しい。**

問6: 空間図形(記号選択・2問/記述・1問)

3問とも円錐の定番の問題。ただし(ウ)の最短距離は展開図を描いたあとに、与えられた条件を図の割合に合わせこむ**図形的な思考力や技術を必要とする難易度が高い問題である。**

出題例 問5 確率

問5 右の図1のように、場所P、場所Q、場所Rがあり、場所Pには、1, 2, 3, 4, 5, 6の数が1つずつ書かれた6個の直方体のブロックが、書かれた数の大きいものから順に、下から上に向かって積まれている。



大, 小2つのさいころを同時に1回投げ、大きいさいころの出目の数を a , 小さいさいころの出目の数を b とする。出た目の数によって、次の【操作1】、【操作2】を順に行い、場所P、場所Q、場所Rの3か所にあるブロックの個数について考える。

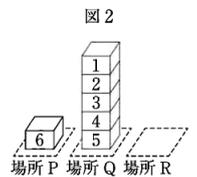
【操作1】 a と同じ数の書かれたブロックと、その上に積まれているすべてのブロックを、順番を変えずに場所Qへ移動する。

【操作2】 b と同じ数の書かれたブロックと、その上に積まれているすべてのブロックを、 b と同じ数の書かれたブロックが場所P、場所Qのどちらにある場合も、場所Rへ移動する。

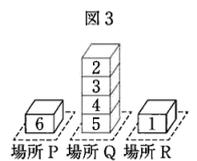
例

大きいさいころの出目の数が5, 小さいさいころの出目の数が1のとき、 $a=5, b=1$ だから、

【操作1】 図1の、5が書かれたブロックと、その上に積まれているすべてのブロックを、順番を変えずに場所Qへ移動するので、図2のようになる。



【操作2】 図2の、1が書かれたブロックを、場所Rへ移動するので、図3のようになる。



この結果、3か所にあるブロックの個数は、場所Pに1個、場所Qに4個、場所Rに1個となる。

いま、図1の状態では、大, 小2つのさいころを同時に1回投げるとき、次の問いに答えなさい。ただし、大, 小2つのさいころはともに、1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとする。

(ア) 次の□の中の「け」「こ」「き」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

ブロックの個数が3か所とも同じになる確率は $\frac{\text{け}}{\text{こき}}$ である。

→ ということは、P, Q, Rが2個ずつになればよいので…

(イ) 次の□の中の「し」「す」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

3か所のうち、少なくとも1か所のブロックの個数が0個になる確率は $\frac{\text{し}}{\text{す}}$ である。

→ ということは、PかQが0個になればよいので…

【入試対策】

- ・中1～3の学習内容において教科書レベルの例題や練習問題が確実に解ければ50点は超える！
- ・20点分ぐらいは超難問。配点も高いので出来れば解きたいが、高い技術や思考力が必要！
- ・残りの30点分ぐらいはそこまで高い思考力を必要としないが、解答までの手順が多かったり、数値が分数だったりするので、他県の入試問題等でそのような問題に慣れておこう！